

注) この RCT は日本東洋医学会 EBM 委員会がその質を保証したものではありません

1. 感染症 (ウイルス性肝炎を含む)

文献

三浦陽子, 山岸由佳, 三嶋廣繁, ほか. 感染性下痢症に対する漢方治療の効果に関する検討. *産婦人科漢方研究のあゆみ* 2011; 28: 102-4. 医中誌 Web ID: 2011211647

1. 目的

感染性下痢症に対する漢方治療の有効性評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (封筒法) (RCT-envelope)

3. セッティング

いずみレディスクリニック 1 施設

4. 参加者

2007 年 9 月から 2009 年 3 月に水様性下痢で受診し、糞便をサンプルとした迅速検査でノロウイルスによる感染性胃腸炎と診断された 33 名

5. 介入

Arm 1: 五苓散 (メーカー不明) 7.5 g/日 分 3 投与 11 名

Arm 2: 五苓散 (メーカー不明) 7.5 g/日 + 芍薬甘草湯 (メーカー不明) 7.5 g/日 分 3 投与 11 名

Arm 3: 非投与 11 名

6. 主なアウトカム評価項目

嘔吐、下痢、腹痛の消失の時間を各治療群別に評価した。

7. 主な結果

嘔吐消失までの時間は、Arm 1: 79.1±27.5 分 (mean±S.D.以下同様)、Arm 2: 83.6±20.1 分、Arm 3: 1701.8±377.2 分であった。下痢消失までの時間は、Arm 1: 110.0±30.0 分、Arm 2: 129.5±28.6 分、Arm 3: 1728.2±352.0 分であった。腹痛消失までの時間は、Arm 1: 122.3±26.5 分、Arm 2: 105.0±16.0 分、Arm 3: 1813.6±357.1 分であった。

8. 結論

五苓散および芍薬甘草湯はノロウイルスによる感染性下痢症による嘔吐、下痢、腹痛に有効である。

9. 漢方的考察

なし

10. 論文中の安全性評価

記載なし

11. Abstractor のコメント

ノロウイルスによる感染性下痢症に対する五苓散と芍薬甘草湯の治療効果を検討した臨床研究である。漢方薬による急性期疾患の治療効果の評価は、改善後に再診しないなどの理由で評価することが難しい対象である。その観点から本研究は漢方薬の急性期疾患に対する有効性を明らかにした貴重な臨床研究である。一方、論文という形式をとっているが、対象者の年齢や性別などの患者背景、発症後から受診までの時間、脱落者の有無などが記載されていない。また、結果から五苓散投与群、五苓散+芍薬甘草湯投与群と漢方薬無投与群との症状消失時間の差は明らかであるが、統計学的な検討はされていないため有意差の有無に関しては記載されていない。貴重な臨床研究であることを考慮すると、これらの点を詳細に記載した形で報告されることが望まれる。しかし、すぐれた治療法のないノロウイルス感染症に対する漢方薬の効果の有無に着眼した点、投与後の経過観察の難しい急性期疾患を対象とした点を考慮するとすばらしい臨床研究であると考えられるので、今後もより多数例を対象とした臨床研究への発展が望まれる。

12. Abstractor and date

後藤博三 2012.12.31